



2022 大学祭が 開催されました









10月15日(土)・16日(日)の2日間、2022年度大学祭が開催されました。

今年のテーマは「POWER PAL GIRLS」。『パワーパルガールズ』という漫画・アニメのキャラクターをモチーフに、女子大学の力を発揮したい、仲間同士協力し合って大学祭を成功させたいという願いが込められています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度は学内限定、2021年度はオンラインでの開催であったため、一般来場型の大学祭は3年ぶりの開催となりました。コロナ禍前の大学祭を知らない学生も多いなか、当日まで手探りで準備を進めてまいりました。

当日は両日とも晴天に恵まれ、学内外から約3,000名の方にご来場いただきました。コロナ禍前を彷彿とさせるような華やかな企画やパフォーマンスでキャンパスが賑わい、参加した学生一人一人にとっても格別の思い出となりました。

大学祭には毎年、大学後援会から助成金のご支援をいただいております。皆様のご支援により、久しぶりに盛大な大学祭を開催できましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。



「誰一人取り残さない」MGの就職支援

11/5(土)に2022年度「保護者のための就職支援セミナー」を開催しました。本セミナーはコロナ禍により2年間、事前収録動画をオンデマンド配信する形で実施してきましたが、今年度は3年ぶりに対面で開催することができました。

メイン企画の全体セミナーでは、「今、企業が学生にもっとも求める力とは?~『主体性』の磨き方~」と題し、株式会社アフターリクルーティング 代表取締役 池谷昌之氏にお話しいただきました。コロナ禍で、オンラインを利用した選考など随分と様変わりした就活環境、昨今の就活スケジュールの主な変更点についての解説に加え、我が子と上手な向き合い方などについても詳しく説明していただきました。後半の分科会(学生インタビュー)では、一般企業・公務員、栄養士、幼稚園教諭・保育士、教員として内定を得た4年生(ジュニアアドバイザー)が、就職活動を終えたばかりの自身を振り返り、保護者の方とどのような距離感で接したかなど自らの体験を語ってくれました。最後は、キャリア支援課職員による個別相談会も実施致しました。


ご都合がつかず来校が叶わなかった保護者の皆様には、11月末まで「全体セミナー」を録画した動画をオンデマンドでご提供するとともに、オンライン(Zoom)での個別相談も承りました。

当日ご参加いただいた保護者の皆様からは「池谷氏のお話は体験談も含め非常に参考になり、あっという間に感じました。」「学生の就活体験談では、司会の方の質問項目が、自分が知りたいこととマッチしており、実際に就活を始める前の時点ではどのように情報収集していたか等を知ることができたので、娘にも伝えました。」などの感想をいただきました。

4年生の就職活動もいよいよ終盤。また、3年生は就職活動のスタートに向けて、現在、進路希望調査票の作成に取り組んでいます。キャリア支援課では学生ひとりひとりの進路を全力で応援しつづけます!



保護者の皆様へ



後援会会長
高橋 博

後援会会報の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、コロナ禍の終息が見えない中でのご苦労はいかほどかと拝察しております。

毎回申し上げておりますが、後援会は大学と家庭の連絡を密にし、宮城学院女子大学大学院、女子大学発展の為に後援することを目的としております。

本会は上記の目的を達成するため、保護者の皆様からご協力いただきました貴重な財源を基に学生と大学に対して種々の助成を行っております。

今年度は5月28日に3年ぶりに後援会総会を対面形式で開催することができ、事業計画や収支予算を承認していただきました。

尚、総会開催前に音楽科によるミニコンサートがあり素晴らしい

ひと時を過ごすことが出来ました。また総会終了後には学生部報告・キャリア支援部報告・学長賞受賞者による成果発表が行われ、それぞれに高評価を得ることができました。


さらには、残念ながら青森と秋田での開催は叶いませんでしたが、岩手・山形・福島の3地区で地区後援会を開催することが出来ました。地区後援会は、宮城県外にお住まいの保護者の皆様と情報の共有と連携を保つことを目的としております。学長をはじめ多くの大学関係者が出席し、直接対話出来る絶好の機会ですので、より多くの保護者の方々に参加いただくことが課題であると認識しております。

後援会の常任役員会では、如何に事業並びに予算を有効且つ公平・公正に執行するかという観点で協議を重ねておりますが、コロナ禍の終息を見通せず、判断や舵取りが非常に難しい状況にあります。

後援会として、学生がより充実した学生生活をおくることで貴重な4年間を過ごせるように、且つ大学が益々発展することを念頭に活動してまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が一刻も早く終息することを願いますとともに、保護者の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

VUCA / AI時代の 宮城学院女子大学



学長
末光 真希

こうしたVUCA / AIの時代に大学に求められる教育とは何でしょうか。一つは、しっかりとした専門教育です。不確実な時代だからこそ、自分の専門領域をしっかりと確立して自分の立ち位置を定位しなければなりません。しかし専門性だけでこのVUCA / AIの時代を生き抜けない事も、また確かなことです。まず、上に述べたように、確立された知識のみに立脚する狭義の専門知はこれから容易にAIに置き換わってしまいます。次に、物事が複合的に起こるようになりました。一分野の専門知だけで解ける問題はないのです。最後に、こうしたVUCA / AIの時代に直面する問題は「想定外」の問題ばかりです。誰も答えを知らないのです。これからは、答えのない問題を解き続けるという「曖昧さに耐える力」が必要です。

ここに「教養」の新しい出番があります。本学は教養を「他者と出会う力」と定義したいと思っています。それは好奇心であり、質問力であり、本質発見力であり、自分事化力であり、失敗を糧とする力であり、情熱です。身に付けた高い専門性を軸足に置き、そこをピボットとして他者—そこには聖書の教える「隣人(となりびと)」が真っ先に座ることでありましょ—と出会う力としての教養こそが、このVUCA / AIの時代を生き抜く新しい専門知であると本学は考えています。「愛のある知性を。」という言葉にはそんな想いが籠められています。

本年度は本学として久しぶりに、そして私としては学長就任以来初めて、対面での地方後援会を開催することができました。本学が保護者の皆さまのお支えによって成り立っていることをあらためて心に刻んだことです。

学長挨拶の中でVUCA / AIの時代を生きることについてお話ししました。この十年余りの中で私たちは千年に一度の大震災、百年に一度の感染症パンデミック、三四半世紀ぶりの世界秩序の崩壊を経験しました。たしかに私たちは変動性(volatility)、不確実性(uncertainty)、複雑性(complexity)、曖昧性(ambiguity)に翻弄されるVUCAの時代に生きています。そこに人工知能(AI)がやってきました。膨大なデータと決められたルールに基づいて推論を行うAIは、解の存在が保証された問いに対しては、それがどんな難問であろうとも人間よりはるかに短時間で「答え」を出すのです。AIが急速に私たちの職を奪う所以です。



2022年度大学後援会総会が開催されました



5月28日(土)、本学キャンパスを会場に2022年度大学後援会総会が開催され、約100名の保護者の方々にご参加いただきました。大学後援会総会は、年1回保護者の方々に向けて大学後援会の活動や大学の取り組みをご紹介させて頂く機会として、様々な企画を行っております。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年度から2年間に渡りやむなく中止しておりましたが、今年度は3年ぶりの対面開催が実現しました。

礼拝堂にて、音楽科によるミニコンサートで幕を開け、オーボエ独奏、ソプラノ独唱のほか、本学オルガニスト・飯塚由美氏によるパイプオルガンの演奏が披露されました。

続いて総会が行われ、高橋博会長による開会の挨拶、末光眞希学長の挨拶に引き続き、審議事項である2021年度事業報告および収支決算報告、2021年度会計監査報告、2022年度事業計画(案)および収支予算(案)ならびに役員選任の審議が行われ、すべて承認いただきました。最後に内海祥子副会長の閉会の挨拶をもって、今年度の総会が終了いたしました。

総会後は、渡部美紀子学生部長(現代ビジネス学科教授)による学生生活に関する報告、木野和代キャリア支援部長(心理行動科学科教授)によるキャリア支援に関する報告が行われ、保護者の皆さまが配布資料を丁寧にご覧になりながら聞いていらっしゃる様子が伺えました。

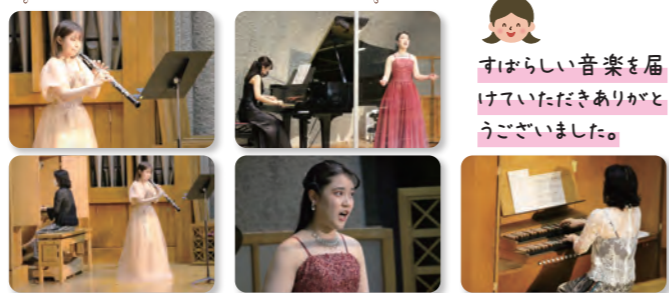
また、学長賞を受賞した現代ビジネス学科の学生による成果発表では、企業との連携活動や受賞の実績をご紹介させていただきました。「学長賞」は、勉学、各種活動や就職活動の励みとなることを期待することを目的として2018年度に創設され、他の学生の模範となる学生を学長賞表彰式等の場を設けて功績を表彰しております。

最後に、20年以上にわたり大学後援会の副会長をお務めいただいた佐藤祐見子様に、退任のご挨拶をいただきました。

学科別クラス懇談では各会場にわかれ、学修内容や学生生活など、保護者の皆様と学科の教員が和やかに懇談する様子が印象的でした。就職個別相談では、就職活動のスケジュールや家庭でのサポートなどについての質問が見受けられ、新卒採用を取り巻く変化について担当職員より説明させていただきました。

当日のアンケートにお寄せいただいたご意見をもとに、来年度もさらにご満足いただけるよう企画してまいりますので、より多くの方にご参加いただければ幸いです。

音楽科によるミニコンサート



すばらしい音楽を届けていただきありがとうございました。

総会

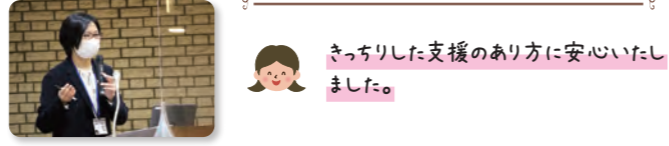


本学の学生生活に関する報告



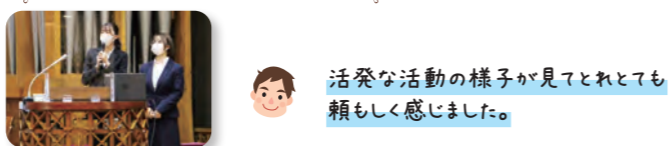
サポート体制等よくわかりました。

本学のキャリア支援に関する報告



きっちりした支援のあり方に安心いたしました。

学長賞受賞者による成果発表

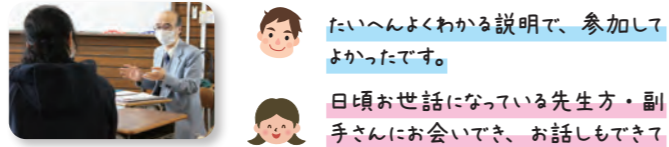


活発な活動の様子が見てとれとても頼もしく感じました。



地域に密着した活動が出来ており非常に良かった。

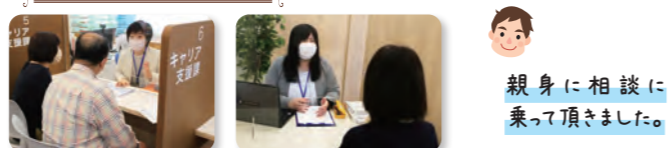
学科別クラス懇談



たいへんよくわかる説明で、参加して良かったです。

日頃お世話になっている先生方・副手さんにお会いでき、お話しもできてありがたい時間でした。

就職個別相談



親身に相談に乗って頂きました。

地区後援会



東北地区の各会場にて地区後援会を開催してまいりましたが、2022年度は、総会同様3年ぶりの対面開催が実現いたしました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、青森市および秋田市を除く3会場(8/21 福島市、8/27 山形市、8/28 盛岡市)での開催となりました。地区後援会は、本学キャンパスを会場に行われる後援会総会への出席が困難な県外にお住いの保護者の皆様と、懇談を交えながら大学の情報をできるだけ多く共有し、緊密な連携を保つことを目的に開催しております。

第一部では、大学後援会会長の開会挨拶、学長挨拶をはじめ、大学後援会役員による後援会活動報告、副学長による本学の近況報告、就職支援担当職員から本学の就職状況についての説明を行いました。続いて、在学生と卒業生による就職活動体験談が行われ、学生生活をふまえた就職活動への取り組みをインタビュー形式でお話しいただきまし

た。保護者の皆様の関心も高く、熱心に耳を傾けていらっしゃる様子が伺えました。

第二部では学業や就職活動について、ご希望に応じて担当職員へ質問や相談をしていただける個別相談会を実施しました。アンケートでは、「参加してよかった」「大学が近く感じた」と温かいコメントをいただきました。

ご参加いただいた皆様には、ご多用中お越しいただきまして、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。残念ながら青森地区および秋田地区に関しては、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み今年度は開催を見送ることとなりましたが、来年度も各地区にて同時期に開催予定です。遠方の保護者の皆様の疑問を解決し、相互の親睦を深めていただく機会にさせていただけたら、より多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

第一部



第二部 個別相談会(学業および就職など)

